

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	プレゼン後のやり取りを活発にするために：主体的に質問をすることのできる生徒を育てる
Author(s)	香田, 夏美
Citation	中等教育研究紀要 / 広島大学附属福山中・高等学校, 64 : 72 - 78
Issue Date	2024-04-01
DOI	
Self DOI	<a href="https://doi.org/10.15027/55189">10.15027/55189</a>
URL	<a href="https://doi.org/10.15027/55189">https://doi.org/10.15027/55189</a>
Right	
Relation	



# プレゼン後のやり取りを活発にするために —主体的に質問をすることのできる生徒を育てる—

香田 夏美

本稿は、英語プレゼンテーションとその後の質疑応答を活発にするための指導の実践例を紹介する。これまでの英語プレゼンテーション指導においては、発表者の指導に重きが置かれており、その後の質疑応答の指導はほとんどなされてこなかった。その問題意識から、なにかしらの新しい情報に触れた際に、当事者意識を持って問いを立て、それを英語で表現することができる生徒を育てることを目標として単元を構成した。アンケートで生徒の抱える困難さを明らかにし、その困難さを解消するための指導を複数回行うことで、生徒は発表後の英語での質疑応答に慣れることができた。生徒の発話やアンケート結果から今後の課題についても考察する。

## 1. はじめに

高等学校学習指導要領（文部科学省，2019）の論理・表現I(3)言語活動および言語の働きに関する事項イ 話すこと〔発表〕では、「関心のある事柄や学校生活などの日常的話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。」とある（下線は筆者による）。我々がなにかしらの新しい情報を得た際に、疑問を持ち、それを問い、そこからやり取りをする中で発展・深化させる、ということはとても主体的な行為であり、英語の授業でもこの力を伸ばすことが求められている。

しかし、上山（2022）は、「英語のプレゼンテーションは、しっかりと毎回準備をして、振り返りや他者からプレゼンスキルを学んで試すことを繰り返すことで、ずいぶんと上手になる。しかし、その後の質疑応答（やり取り）は苦手な生徒も多く、現場の次の課題は、ここにあるだろう。」と指摘している。筆者のこれまでの経験においても、英語のプレゼンそのものは練習を重ねて上達していくのだが、その後の質疑応答では、英語の得意な生徒や、気の利いた生徒に任せられているような雰囲気を感じることがあった。

そこで、今回はこれまで明示的にはあまり行われてこなかったプレゼン後の質疑応答を活発にするための指導に着目した。生徒が抱える困難さを明確にするためにアンケートを行い、その困難さを克服するために、複数 Unit に渡って単元を構成し、指導を重ねた。

高等学校における英語指導の中で、プレゼンとその後の質疑応答を活発にすることを目標とした実践について

報告し、生徒の発話とアンケート結果から、今後の展望について述べる。

## 2. 指導の実際

### 2-1. 対象、期間、単元計画

筆者が担当する高校1年生1クラスを対象に、論理表現Iの授業で行なった。教材は *Genius English Logic and Expression I* の Unit 17, 18, 20 である。2023年10月から2023年11月にかけて計8回の計画で実施した。プレゼンとその後の質疑応答を単元内で複数回行って慣れさせることを目的に、以下のように複数の Unit に渡って単元を構成した。

表 1. 単元計画

時限	内容
1	導入 プレゼンテーションの動画視聴
2	Unit 17-1 教科書内容理解、質問練習①
3	Unit 17-2 プレゼン① 【影響を与えた人物や出来事】
4	Unit 18-1 教科書内容理解、質問練習②
5	Unit 18-2 プレゼン②【環境問題】
6	Unit 20-1 教科書内容理解、質問練習③
7	Unit 20-2 プレゼン準備、質問練習④
8	Unit 20-3 質問練習⑤、 プレゼン③【日本文化】

### 2-2. 導入：プレゼンテーションの動画視聴

導入にあたっては、昨年度の高校1年生のパフォーマンステスト（*Genius English Logic and Expression I*, Unit 18,

Model 2) の録画を視聴し、学んだことをワークシートに記入、共有させた(資料1)。これは、教科書本文の内容に自分の意見を1文加えて ALT の先生に発表することを課題としたもので(表2)、Voice Inflection やジェスチャーなど、発表者として大切な技術に生徒が気づくことをねらいとした。

表 2. Unit 18 Model 2 を元にした発表原稿

According to a WWF report in 2018, eight million tons of plastic ends up in the ocean every year. As you can see in this figure, in 2014 the amount of plastic in the world's ocean was less than the amount of fish. However, by 2050 there will be more plastic than fish. The solution to this problem is 生徒が考えた解決策.

生徒の記述では、「資料を指さしていて、どの部分の説明かがわかりやすかった。」「適度な間があった。」「強調したい部分をゆっくり話していた。」などの記述が多く見られた。「相手を意識して、相手に伝わるように話すこと」の大切さを全体でも確認した。知らない人のモデルを見るよりも、身近な先輩のモデルを見ることで、生徒は理想的な発表をイメージしやすく、英語のプレゼンをすることに対してモチベーションが上がったように思われる。

その後、内容語と機能語、Voice Inflection の説明をし、視聴した録画と同じ本文の音読練習を行い、家庭でも音読練習をすることを促した。

### 2-3. 質問練習

プレゼン後の質疑応答を活発にするための手立てとして、質問作りの練習を表3のように帯活動で計5回行った。最初は読んだ情報から質問を作り、それから聞いた情報から質問を作る、というように段階を踏んで英語で質問をすることに慣れさせた。

表 3. 質問練習①～⑤の内容

	内容
1	「姫路城」の説明を <u>読んで</u> 、質問を考える。(U8-Model 1)
2	①の復習+「青い池」についての説明を <u>聞いて</u> 、質問を考える。(U8-Model 2)
3	②の復習+「尾道美術館」についての説明を <u>聞いて</u> 、質問を考える。
4	③の復習+「布団」についての説明を <u>聞いて</u> 、質問を考える。(U20-Model 1)

5	④の復習+「お守り」についての説明を <u>聞いて</u> 、質問を考える。(U20-Model 2)
---	---

題材としては、基本的に教科書の既習内容を使用することとした。しかし、教科書本文をそのまま使ってしまうと、情報が十分に与えられているため、聞き手は質問がしにくい。そこで、こちらで改変して、あえて情報を不足させることで、生徒が質問したくなるポイントを作った(表4)。

表 4. Unit 8 Model 1 を筆者が改変したもの

Himeji-jo was designated as the first World Heritage Site in Japan. The castle is also called Shirasagi-jo. Its beautiful structure can be seen from Himeji Station. The castle has been loved by local people as well as tourists for a long time. It was built a long time ago and brought back to its original beauty in 2015. Now, augmented reality (AR) is being used to help tourists understand its history. Won't you come and try it out for yourself?

この姫路城に関する説明を読んで、生徒から出た主な質問は以下の通りである。

- Who built the castle?
- How tall is it?
- When was it built?
- How far is it from Himeji station?
- Why is it called "Shirasagi-jo"?
- What is the difference between Himeji-jo and other castles?
- Why is it so popular?
- Why was it designated as World Heritage Site?

これらの生徒から出た質問を、次回の質問作りの練習の際、復習として全体で共有・音読練習をした(資料3)。そうすることで、回数を重ねるごとに生徒は質問することに慣れ、質問の数が増えたことはもちろん、様々な視点から質問ができるようになっていった。

指導のポイントに関しては、例えば姫路城であれば、「誰が・いつ建てたのか。」「どれくらいの高さなのか。」といった事実を問うような質問ができることももちろん大切だが、「なぜ人気なのか。」「なぜ世界遺産に登録されたのか。」「他の城との違いは何なのか。」のような、そのものの価値を問う質問ができるような指導をしたかったと思った。そのために、新たに cubing という視点を導入した。

## 2-4. 質問をするために：Cubing という視点

卯城・檜葉 (2021) によると、Cubing とは、「事物を6つの側面から考察し描写する方法」であり、「日本文化、流行りのもの、新しい科学技術のような読み手に馴染みのない事物や概念を紹介するのに有効」とある。

「cube」は文字通り立方体を表しており、6つの側面(①Describe (描写する), ②Compare (比較する), ③Associate (連想する), ④Analyze (分析する), ⑤Apply (応用する), ⑥Argue (賛否を述べる))をできるだけ多く取り入れることで多面的に物事を捉えることができ、読み手にもわかりやすい描写が可能」とある。

卯城・檜葉 (2021) では、この cubing をライティングのブレインストーミングの手法として紹介されているが、今回は発表に対する質問をするための視点として、生徒に提示した。

先ほどの姫路城の例で言えば、①Describe (描写) にあたるのが事実に関する質問であり、それ以外の②Compare (比較) や③Associate (連想), ④Analyze (分析), ⑤Apply (応用), ⑥Argue (賛否) といった視点からも質問をすることができれば、その後のやり取りが活発になるであろうと考えた。

## 2-5. プレゼン①【影響を与えた人物や出来事の紹介】

文法事項は仮定法過去完了形である。「もしその出来事がなければ～もしその人に会っていなければ～」という文章を入れることを必須とし、プレゼンを1分間、その後の質疑応答1分間で実施した。生徒の様子は、発表はそれぞれ頑張っているものの、初回ということもあり、発表後の1分間の質疑応答は活発になっておらず、気まずい時間が流れているグループも多く見られた。

プレゼンを実際に行う授業(第3, 5, 8時)では、その授業の最初に自分で目標を設定させ、その到達度を振り返らせた(資料2)。①の項目は自分で目標設定の記述、②はその達成度、③は授業の最後に教師側からの振り返りの視点を与え、その達成度を記述させた。

## 2-6. 生徒が抱える困難さ ～アンケート結果から～

生徒がどこに困難さを抱えているかを明らかにするため、授業後に該当クラス39名を対象としてアンケートを行った(資料4)。

まず、質問をする前にそもそも発表内容が聞き取れていたのかについて。発表内容に関する聞き取りが「できた」と答えた生徒は4名、「ほとんどできた」と答えた生徒は31名、「ほとんどできなかった」と答えた生徒は4名、「できなかった」と答えた生徒は0名であった。ここでは約90%の生徒が「できた」もしくは「ほとんどできた」と回答している。

発表後の質問について。「できた」と答えた生徒は24名、「できなかった」と答えた生徒は15名であった。「できた」と答えた生徒には質問内容に満足しているかを聞いた。「満足している」と答えた生徒が17名、「満足していない」と答えた生徒が7名であった。満足していない生徒の理由としては、「簡単な内容についてしか質問できなかったから。」「疑問文の正しい語順が瞬時に口から出てこないから。」「内容とあまり関係のない質問をしてしまったから。」「質問から会話を広げられなかったから。」などという記述が見られた。

生徒が質問に満足していない例として、代表者の発表に対する質問において、このような場面があった。トピックは「私の尊敬するピアノの先生」だったのだが、生徒による質問は「What song do you like the best?」であった。この質問をした生徒は内容に満足していないと言う。おそらく、先生のパーソナリティや、先生とのエピソードを深掘りするような質問がしたかったができなかった、ということであろう。この困難さは、英語の質問作りを複数回行うことで改善することをめざした。

質問が「できなかった」と答えた生徒にその理由を尋ねると、「質問が思いつかなかった」というのが最も大きな理由で、その次に「聞き取ることができなかった」という理由が挙げられた。

「質問が思いつかなかった」という点に関しては、単元内で複数Unitに渡ってプレゼンを聞き、質問を考え、共有するという練習を複数回行うことで、質問をする視点やコツをつかむような指導を行うこととした。

しかし、筆者が注目したのは、「聞き取ることができなかった」という理由が2番目にあげられたことである。最初の質問項目において発表内容の聞き取りが「できた」もしくは「ほとんどできた」と答えた生徒が約90%であったことを考えると、この「聞き取ることができなかった」要因としては、聞き手側の問題というよりも、話し手の声が小さいことや、聞き手を意識した発表ができていなかったことが原因として考えられる。高等学校学習指導要領(文部科学省, 2019)の論理・表現I(2)話すこと[発表]においても、「スピーチやプレゼンテーションは、ある程度事前の準備をして臨むことが考えられるが、その場合でも、事前に書いた原稿をそのまま読み上げるだけに終始しないよう、聞き手にわかりやすく伝えることを意識しながら話すように指導することが必要」とある(下線部は筆者による)。このアンケートをとった後の授業で、全体でも改めて、話し手の聞き手を意識した発表の大切さ(声の大きさ、スピード、語彙の選択など)を確認した。また、音読練習の大切さも改めて確認し、授業で行うとともに、家庭でも練習をするよう再度促した。

### 2-7-1. プレゼン③【日本文化紹介】発表準備と手立て

日本文化に興味があるもののあまり詳しくない海外の人を相手にしていると想定して、その相手に伝わるように、発表内容や伝え方を工夫することを求めた。ただ事実の説明をするだけでなく、紹介するものが持つ価値を知ってもらうこと、を目的とした。原稿作成においては、質問練習の際にも触れている cubing の視点も参考にするよう促した。文法項目は名詞構文・無生物主語である。

一言で日本文化紹介といえど、様々なものがあり、幅が広がりすぎると指導が難しくなると考えたので、トピックはあらかじめこちらが指定することとした。今回は竹、風呂敷、打ち水、納豆、折り紙、扇子の6つとし、4人グループを作ってそれぞれが担当するトピックを決め、トピックごとに集まって発表内容を考えるエキスパート活動を行った。

限られた時間の中で、準備をして発表まで行う手立てとして、それぞれのトピックに関連するウェブページの紹介をすること、発表原稿の事実説明の部分はこちらで準備し、生徒が価値の説明を考えることに時間を費やすことができるようにした(資料5)。

### 2-7-2. プレゼン③【日本文化】とその後の質疑応答

日本文化の紹介プレゼン後に、実際に生徒がした質問のうち、いくつかを紹介する。(いずれも原文まま)

- What is the difference between “sensu” and “uchiwa”?
- Can we make “natto” by ourselves?
- Do you add something ,such as source, when you eat “natto”?
- Why do you think that many people don’t use “furoshiki” though it is convenient?
- Do you have something with bamboo?

これらは、比較をしたり、相手の意見を求めたり、応用の視点を持って質問をすることができている。このことから、cubing の視点を紹介したことは彼らの質疑応答を活発にするために有効であったと言える。

### 2-8. アンケートの結果の推移

Unit 20 終了後にも、Unit 17 終了後に行ったものと同じ項目の生徒アンケート(資料4)を実施した。その結果は資料6の通りである。発表後の質問に関して「できた」と回答した生徒が95%、「できなかった」と回答した生徒は5%で、できた生徒が大幅に増えた。できた生徒に内容の満足度を尋ねると、「満足している」と答えた生徒が68%、不満足と答えた生徒が32%であった。不満足の原因としては、「発表者の意図をより深掘りするような

質問をしたかった。」や、「質問の後に会話を続けられなかった。」という内容が多数を占めた。その他にも、「文法的に間違っていることがあった。」「発表者が答えにくい質問をしてしまった。」等の記述が見られた。英語で質問をすること自体には慣れてきているが、もっと会話を深め、発展させたい、と願う生徒の様子が伺えた。

## 3. まとめ及び今後の展望

プレゼンにおいて、話し手は、聞き手に自分のメッセージが伝わるように工夫することが大切であり、聞き手は、質問をすることで相手に「あなたの話に興味を持っていますよ。」「あなたのメッセージをきちんと受け取っていますよ。」と伝えることができる。そのための第一歩として、今回は cubing の視点を与えて、質問を作る練習を重ねた。短期間で集中して取り組んだこともあり、生徒は発表後の質疑応答に慣れ、ある程度上達したことがアンケート結果からも読み取れる。

しかし、ある程度上達してくると、もっとトピックに関連した深いことが聞きたくなるものである。生徒アンケートから、「発表者の意図を深掘りするような質問ができるようになること」や、「質問後に会話を続けること」という力を伸ばしたいという生徒が多くいることも分かった。「質問をする」ということは、英語の聞く・話す力が必要なことはもちろん、話し手の意図を汲み取り、言語化するという高度な力を必要とする。今回の指導をその入り口として、引き続き、様々な場面で英語による質疑応答やその後のやり取りの活動を行う中で、必要な技能を育成していきたい。

〈引用・参考文献〉

- 卯城祐司 榎葉みつ子(編)(2021)『新・教職課程演習 第18巻 中等英語科教育』協同出版
- 上山晋平(2022)『英語リテリング&ショートプレゼンテーション指導ガイドブック』明治図書
- 佐藤臨太郎・笠原究(編)(2022)『効果的英語授業の設計 理解・練習・繰り返しを重視して』開拓社
- 千菊基司(編)(2022)『即興的に「やり取り」をする力をつける! 高校英語スピーキング活動アイデア&ワーク』明治図書
- 中嶋洋一(編)(2023)『英語教師の授業デザイン力を高める3つの力ー読解力・要略力・編集力』大修館書店
- 三浦孝・中嶋洋一・池岡慎(2006)『ヒューマンな英語授業がしたい!ーかかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインするー』研究社
- 山岡大基・田頭憲二(編)(2023)『英語授業デザインマニュアル』大修館

資料1 先輩のプレゼンから学ぶ

4年生 論理表現I 先輩のプレゼンから学ぶ

学習日 10月24日

それぞれの先輩のプレゼンを見て、良いと思うところを書きましょう。

先輩①

- ・ 最初と最後にあいづがある
- ・ 紙を見ずに先生の目を見て話している
- ・ 分かりやすい英語で聞きやすかった

先輩②

- ・ 資料を指差して今どこを言っているのか分かった
- ・ 文と文の間が空いて聞きとりやすい
- ・ 相手を意識していた

先輩③

- ・ 英文に強弱がしかりとついていて、分かりやすかった
- ・ 声はきりしていた
- ・ 手の動きがあって分かりやすかった

資料2 セルフリフレクション

4年生 論理表現I プレゼン練習 ①

学習日 11月6日

① 今日のプレゼンで一番頑張りたいことを書きましょう。

- ・ 強調をする(少なくとも1回は)
- ・ 聞き取りやすいスピードで話す。

② ①についての達成度を書きましょう。

- ・ 強調を1回だけできた。もっとどこをもっと強調するができていない。
- ・ スピードは少し速かった。

③ (聞き手を意識する)

- ・ スピードが速く聞きづらかったと思う。また、もう少し聞き手の方を向いて話すのが良かったと思う。
- ・ たぶん、強調は使えた。

### 資料3 質問作りの練習（表面・裏面）

4年生 論理表現 I Making Questions I

学習日 月 日

日本のことに興味があるものの、あまり知らない海外の人が、下の姫路城の説明を読み、質問するとしたら、どのようなことを質問するでしょうか。

Himeji-jo was designated as the first World Heritage Site in Japan. The castle is also called Shirasagi-jo. Its beautiful structure can be seen from Himeji Station. The castle has been loved by local people as well as tourists for a long time. It was built a long time ago and brought back to its original beauty in 2015. Now, augmented reality (AR) is being used to help tourists understand its history. Won't you come and try it out for yourself?

- ・ Who lived there?
- ・ Who built the castle?
- ・ Why is it called "Himeji-jo"?
- ・ How tall is it?
- ・ When was it built?
- ・ How can I get there?
- ・ How far is it from Himeji station?
- ・ What is Shirasagi?
- ・ Why is it called "Shirasagi-jo"?
- ・ What is the difference between Himeji-jo and other castles?
- ・ Why is it so popular?
- ・ Why was it designated as World Heritage Site?

質問を考えながら（必要があればメモをしながら）聞きます。

Please make questions as many as possible.

- Who
- Where
- When
- What
- Why
- Which
- How
- Have you
- Do you
- Did you

### 資料4 プレゼン後の質疑応答 アンケート

論理表現 I プレゼン後の Q&A について アンケート① Unit17

4年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

論理表現 I Unit17 で行ったプレゼンとその後の質疑応答について、最も当てはまるものの番号に丸をつけてください。

- (1) 発表者が話した内容について
- ① ほぼ全て聞き取るこ|とができた
  - ② だいたい聞き取ることができた
  - ③ ほとんど聞き取ることができなかった
  - ④ 全く聞き取ることができなかった
- (2) 発表後の質疑応答について
- ① 質問することができた →(3)へ
  - ② 質問することができなかった →(4)へ
- (3) 質問した内容について教えてください。
- ① 満足している
  - ② あまり満足していない
- ②の人はその理由を具体的に（ ）
- (4) 質問できなかった理由について、次のことについて教えてください。
- (4-1) そもそも話し手の英語を聞き取れなかった
- ④ よくあった ③ たまにあった ② あまりなかった ① ほとんどなかった
- (4-2) 発表内容は理解できても、質問を思いつかなかった
- ④ よくあった ③ たまにあった ② あまりなかった ① ほとんどなかった
- (4-3) 質問を考えることができたが、英語にできなかった
- ④ よくあった ③ たまにあった ② あまりなかった ① ほとんどなかった
- (4-4) 質問を考えることができたが、言えなかった
- ④ よくあった ③ たまにあった ② あまりなかった ① ほとんどなかった
- その他（ ）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料5 日本文化紹介 発表原稿ワークシート

Japanese bamboo

Hint : The Characteristics and Many Uses of Japanese Bamboo (政府広報オンライン)

Greet	Hello, everyone.
Topic	I'd like to talk about ( Japanese bamboo ).
Describe	Japanese people have used bamboo to make many things like plastic or wood.
Associate	
Compare	
Apply	
Conclude	<input type="checkbox"/> Therefore, I think Japanese bamboo will help us achieve a sustainable society. <input type="checkbox"/> That's why I think Japanese bamboo will solve environmental problems.
Thank	Thank you for listening. Do you have any questions?

資料6 生徒アンケート結果の推移

Unit 17 プレゼン後の生徒アンケート結果 (39名)

発表内容聞き取り				発表後の質問		質問内容	
1 できた	2 だいたいできた	3 ほとんどできなかった	4 全くできなかった	1 できた	2 できなかった	1 満足	2 不満足
4	31	4	0	24	15	17	7
10%	80%	10%	0%	62%	38%		

Unit 20 プレゼン後の生徒アンケート結果 (36名)

発表内容聞き取り				発表後の質問		質問内容	
1 できた	2 だいたいできた	3 ほとんどできなかった	4 全くできなかった	1 できた	2 できなかった	1 満足	2 不満足
5	29	2	0	34	2	23	11
14%	81%	5%	0%	95%	5%		